

【引受保険会社】



〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

変額保険

グローバルミックス

四半期運用レポート

2016年7月～2016年9月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式 50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 (特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 ALM & 特別勘定運用部が行います。)	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
		アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) (適格機関投資家私募)	
債券 50%			

※ 特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- ・アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険

特別勘定の四半期運用レポート (2016年7月～2016年9月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- ・本ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2016年7月～2016年9月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が前期末比+6.18%の1,322.78ポイントで終了しました。

7月から8月にかけて、米雇用統計が市場予想を上回ったことなどを背景に大幅に上昇する一方で、FRB(米連邦準備制度理事会)副議長の発言を受けて早期の追加利上げが意識され、下落するなど揉み合いで推移しました。9月以降も、米景気の先行き不透明感などから下落する一方、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」導入発表などから上昇するなど、揉み合いで推移しました。

業種別(東証33業種)では、主要企業の業績好転期待から「その他製品」(前期末比+27.85%)が最も上昇する一方、原油高による採算悪化が懸念された「空運業」(前期末比△8.20%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、7月から8月にかけて、米雇用統計が市場予想を上回ったことなどを背景に大幅に上昇した後は、利益確定目的の売りや、米追加利上げが意識されたことなどから、小幅に下落しました。9月以降は原油増産凍結合意への期待の低下や、米利上げに対する警戒感が再び高まったことなどから下落しましたが、FOMC(米連邦公開市場委員会)で追加利上げが見送られたことなどをを受けて、上昇しました。期を通してみると、NYダウは、前期末比+2.11%の18,308.15ドルで終了しました。

欧州株式市場は、7月から8月にかけて、イタリアの銀行の不良債権に対する懸念などから銀行株が急落し、下落する場面もありましたが、英中央銀行が金融緩和策を決定したことなどにより、上昇しました。9月以降は、揉み合いでの推移となり、FOMCの追加利上げ見送りなどを好感し、上昇する場面もありましたが、ECB(欧州中央銀行)理事会で追加金融緩和が見送られたことや、ドイツ大手銀行の信用不安などを背景に下落しました。期を通して見ると、市場別騰落率は、英FTSE100は前期末比+6.07%、仏CAC40は同+4.97%、独DAXは同+8.58%となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、7月から8月にかけて、財務相が40年国債増発の検討を表明したことなどにより、金利は大幅に上昇(価格は下落)した後は、揉み合いながら小幅に上昇しました。9月以降は、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を発表すると、一時上昇しましたが、日銀の黒田総裁の講演で、マイナス金利の深堀りについて言及されたことなどをを受けて、金利は低下(価格は上昇)しました。新発10年国債利回りは△0.085%となりました(前期末は△0.230%)。

日銀が一部当座預金にマイナス金利を適用していることから、無担保コール翌日物金利は概ね△0.07～△0.03%近辺で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、7月から8月にかけて、英国のEU(欧州連合)離脱を巡る世界経済の先行き不透明感などを背景に金利は低下(価格は上昇)した後は、上昇に転じましたが、その後は米国の利上げ観測などから小幅に揉み合いながら推移しました。9月以降は、ボストン連銀総裁の利上げを支持するとの発言などをを受けて上昇しましたが、FOMCで追加利上げが見送られたことなどから、低下しました。米10年国債利回りは1.594%となりました(前期末は1.470%)。

欧州債券市場は、7月から8月にかけて、欧州の銀行に対する信用力懸念などを背景に、金利は低下(価格は上昇)しましたが、英中央銀行が市場予想に反して利下げを見送ったことなどから、上昇(価格は下落)した後は、小幅に揉み合いながら推移しました。9月以降は、ECBが追加金融緩和を見送ったことなどをを受けて上昇しましたが、ドイツ大手銀行の信用不安の影響などから低下しました。独10年国債利回りは△0.119%となりました(前期末は△0.130%)。

FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.25～0.50%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年0.00%を維持しました。

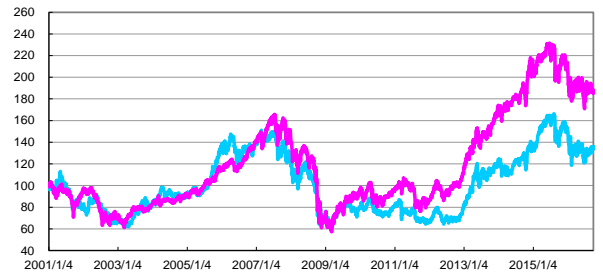
【外国為替市場】

米ドル/円相場は、前期末比1円79銭円高ドル安の1ドル=101円12銭となりました。7月から8月にかけて、日銀が国債買入などで財政資金を供給する「ヘリコプターマネー」への思惑などを背景に、円安が加速した後、米国の早期利上げ観測の後退などから一転円高が進行しましたが、その後は揉み合いで推移しました。9月以降は、市場予想を上回る米経済指標や、米早期利上げ観測が高まるなど、再び揉み合いで推移した後、FOMCが追加利上げを見送ったことなどから、円高が進行しました。

ユーロ/円相場は、前期末比1円33銭円高ユーロ安の1ユーロ=113円36銭となりました。7月から8月にかけて、英中央銀行が利下げを見送ったことなどを背景に円安が加速した後、日銀の追加金融緩和の内容が市場の期待を下回ったことなどをを受けて、円高が進行しましたが、その後は揉み合いで推移しました。9月以降は、ECBが追加金融緩和を見送ったことなどを背景に円安に振れる一方、その後円が買い戻されるなど、揉み合いで推移した後、FOMCが追加利上げを見送ったことなどから、円高が進行しました。

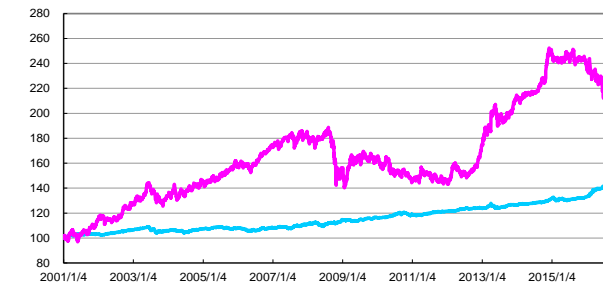
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

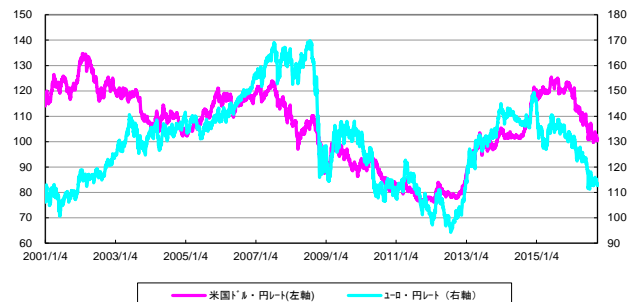


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所:株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

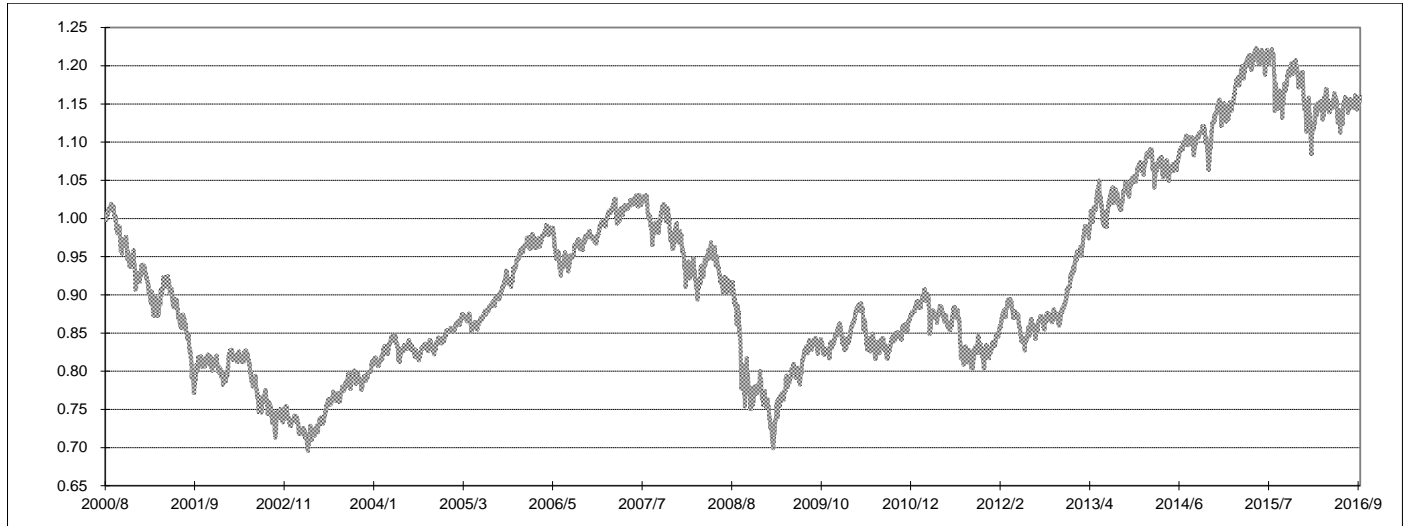
特別勘定の四半期運用レポート (2016年7月～2016年9月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2016年9月 末日現在]

■特別勘定のINDEXの推移

※ 特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2016年9月末	2016年8月末	2016年7月末	2016年6月末	2016年5月末	2016年4月末
INDEX	1.154	1.154	1.154	1.127	1.164	1.155
騰落率(%)	過去1ヵ月 0.01	過去3ヵ月 2.34	過去6ヵ月 0.24	過去1年 1.35	過去3年 10.96	設定来 15.38

※ 特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1.00として計算しています。

※ 騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

■特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	1,800,877	4.2
その他有価証券	41,337,976	95.8
アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A)	4,193,610	9.7
アクサ ローゼンバーグ・日本バリューストックファンド(B)	6,172,414	14.3
アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)	6,834,368	15.8
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A)	4,611,469	10.7
アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)	19,526,112	45.3
合計	43,138,853	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。

資産配分につきましては、基本資産配分を概ね維持しております。(株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。)

今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

特別勘定の四半期運用レポート (2016年7月～2016年9月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2016年9月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■ 当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.49%	6.19%	▲2.74%	▲6.91%	15.67%	16.51%
BM	▲0.51%	6.18%	▲1.81%	▲6.26%	10.78%	▲10.78%
差	1.00%	0.01%	▲0.93%	▲0.65%	4.89%	27.29%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 電気機器	12.45%
2 情報・通信業	10.41%
3 輸送用機器	9.96%
4 小売業	8.68%
5 化学	6.19%
6 銀行業	5.64%
7 医薬品	5.59%
8 機械	4.04%
9 その他業種	35.24%
10 現金等	1.81%
合計	100.00%

○ 市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	98.19%
2 現金等	1.81%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	3.73%
2 KDDI	情報・通信業	2.44%
3 日本電信電話	情報・通信業	2.27%
4 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	1.83%
5 ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.63%
6 NTTドコモ	情報・通信業	1.25%
7 日本たばこ産業	食料品	1.21%
8 武田薬品工業	医薬品	1.18%
9 アステラス製薬	医薬品	1.15%
10 本田技研工業	輸送用機器	1.14%
合計		17.82%
組入銘柄数		300銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+6.19%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比+6.18%となりました。当四半期の日本株式市場は、市場全体に対しそれまで先行して上昇していた銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、少なめに保有していた機械が上昇したことや多めに保有していた不動産が下落したことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた日本合成化学工業(4201)やエイベックス・グループ・ホールディングス(7860)が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた日本調剤(3341)やアダストリア(2685)が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「1～4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

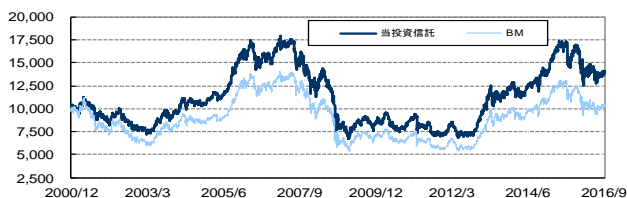
特別勘定の四半期運用レポート (2016年7月～2016年9月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2016年9月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) 〈適格機関投資家私募〉
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定以来
投資信託	0.56%	5.43%	▲2.61%	▲6.07%	19.69%	39.31%
BM	▲0.51%	6.18%	▲1.81%	▲6.26%	10.78%	2.60%
差	1.07%	▲0.75%	▲0.80%	0.19%	8.92%	36.71%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 情報・通信業	12.89%
2 電気機器	11.45%
3 小売業	8.89%
4 輸送用機器	7.86%
5 銀行業	7.86%
6 医薬品	7.00%
7 化学	4.96%
8 不動産業	4.52%
9 その他業種	32.80%
10 現金等	1.77%
合計	100.00%

○市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	95.03%
2 その他の市場	1.70%
3 ジャスダック証券取引所	1.28%
4 東京証券取引所第二部	0.20%
5 名古屋証券取引所第一部	0.01%
6 現金等	1.77%
合計	100.00%

○組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	3.26%
2 日本電信電話	情報・通信業	2.68%
3 KDDI	情報・通信業	2.60%
4 日本たばこ産業	食料品	2.29%
5 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	2.16%
6 武田薬品工業	医薬品	2.09%
7 アステラス製薬	医薬品	1.88%
8 NTTドコモ	情報・通信業	1.87%
9 東日本旅客鉄道	陸運業	1.84%
10 日産自動車	輸送用機器	1.65%
合計		22.31%
組入銘柄数		177銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+5.43%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比+6.18%となりました。当四半期の日本株式市場は、市場全体に対しそれまで先行して上昇していた銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、少なめに保有していた機械が上昇したことや多めに保有していた医薬品が下落したことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた三菱ケミカルホールディングス(4188)やTDK(6762)が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していたアダストリア(2685)や東急不動産ホールディングス(3289)が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

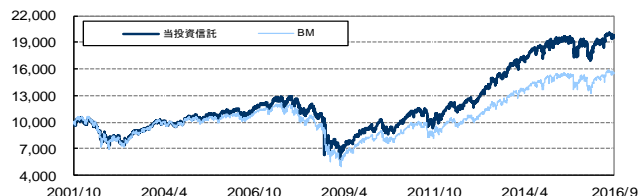
特別勘定の四半期運用レポート (2016年7月～2016年9月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2016年9月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲1.30%	3.47%	3.23%	12.80%	27.31%	96.35%
BM	▲1.28%	3.52%	3.59%	13.00%	25.02%	55.04%
差	▲0.02%	▲0.05%	▲0.35%	▲0.20%	2.29%	41.31%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数²(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 〈適格機関投資家私募〉

【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 ソフトウェア・サービス	13.38%
2 医薬品・バイオテクノロジー	9.92%
3 資本財	6.70%
4 小売	6.55%
5 食品・飲料・タバコ	6.44%
6 エネルギー	6.34%
7 テクノロジー・ハードウェア	4.67%
8 半導体・半導体製造装置	4.45%
9 その他業種	41.09%
10 現金等	0.45%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 ALPHABET INC-CL A	アメリカ	ソフトウェア・サービス	3.07%
2 APPLE INC.	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	2.77%
3 JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	2.36%
4 MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.92%
5 PFIZER INC.	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	1.68%
6 FACEBOOK INC.	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.62%
7 INTEL CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	1.57%
8 EXXON MOBIL CORP	アメリカ	エネルギー	1.45%
9 COMCAST CORPORATION	アメリカ	メディア	1.42%
10 PEPSICO INC.	アメリカ	食品・飲料・タバコ	1.39%
合計			19.26%
組入銘柄数			228銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+3.47%となりました。一方、ベンチマークであるS&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は、前四半期末比+3.52%となりました。当四半期の米国株式市場は、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、少なめに保有していたコンピュータやITハードウェアが上昇したことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた半導体・半導体製造装置のNVIDIA CORPやソフトウェア・サービスのALPHABET INC-CL Aが上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた小売のDOLLAR GENERAL CORP. やLOW E'S COMPANIES INC. が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

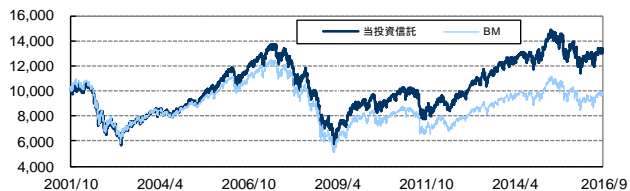
特別勘定の四半期運用レポート (2016年7月～2016年9月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2016年9月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	▲0.05%	5.86%	3.96%	6.73%	12.66%	32.19%
BM	▲0.15%	6.50%	3.76%	5.96%	7.50%	▲2.52%
差	0.10%	▲0.64%	0.20%	0.77%	5.15%	34.71%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数³(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)

【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリュー株)を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーク・欧州株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 国別構成比率

順位	国名	マザーファンド
1	イギリス	27.33%
2	ドイツ	14.62%
3	スイス	14.35%
4	フランス	13.30%
5	オランダ	5.64%
6	スペイン	5.34%
7	スウェーデン	4.65%
8	デンマーク	2.90%
9	その他の国	11.32%
10	現金等	0.55%
合計		100.00%

○ セクター別構成比率

順位	セクター	マザーファンド
1	資本財	10.44%
2	素材	10.34%
3	医薬品・バイオテクノ・ライフ	10.16%
4	食品・飲料・タバコ	10.02%
5	銀行	7.18%
6	保険	6.46%
7	エネルギー	5.80%
8	電気通信サービス	5.24%
9	その他業種	33.81%
10	現金等	0.55%
合計		100.00%

○ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	NESTLE SA	スイス	食品・飲料・タバコ	3.89%
2	ROCHE HOLDING AG	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	3.00%
3	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	2.06%
4	NOVARTIS AG	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.76%
5	SIEMENS AG	ドイツ	資本財	1.73%
6	UNILEVER NV	オランダ	家庭用品・パーソナル用品	1.67%
7	BASF SE	ドイツ	素材	1.61%
8	ALLIANZ SE	ドイツ	保険	1.55%
9	DIAGEO PLC	イギリス	食品・飲料・タバコ	1.52%
10	BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	食品・飲料・タバコ	1.49%
合計				20.30%
組入銘柄数				217銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+5.86%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は前四半期末比+6.50%となりました。当四半期の欧州株式市場は、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、少なめに保有していた医薬品や石油メジャーが下落したことはプラスに寄与しました。国別では下落したスイスの銘柄を少なめに保有していたことがプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた銀行のHSBC HOLDINGS PLC(イギリス)が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた電気通信サービスのBT GROUP PLC(イギリス)が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

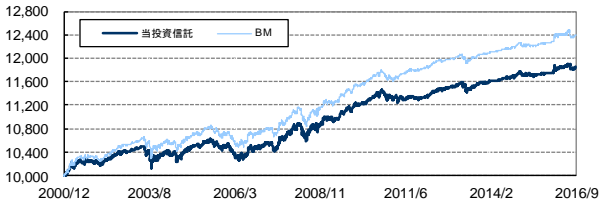
特別勘定の四半期運用レポート (2016年7月～2016年9月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) (適格機関投資家私募) の運用状況

[2016年9月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) (適格機関投資家私募)
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、原則としてわが国の公社債に投資を行い、ベンチマークを中長期的にみて、上回る運用をめざします。外貨建資産に投資した場合は、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■ 当投資信託の騰落率

投資信託	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
BM	0.27%	▲0.18%	0.23%	0.97%	2.53%	18.54%
差	▲0.03%	0.16%	0.09%	▲0.26%	▲0.39%	▲5.47%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。

ベンチマークは、ブルームバーグ・バークレイズ・日本総合(3-7年)インデックス⁴⁾です。(※)

(※)当ベンチマークは、2016年8月からバークレイズ日本総合(3-7年)インデックスより変更となりました。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	3.91年	99.73%
国債	4.91年	59.96%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	0.00年	0.00%
金融債	0.00年	0.00%
社債等	2.40年	39.78%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等*	0.00年	0.27%
合計	3.90年	100.00%

* 債券先物を含みます。

※ 「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○ 公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	14.23%
A	78.74%
BBB	7.03%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準:

※ 海外格付機関の格付を優先します。

※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付を採用します。

○ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	第324回利付国債(10年)	日本	0.800%	2022年6月20日	A1	A+	13.03%
2	第312回利付国債(10年)	日本	1.200%	2020年12月20日	A1	A+	10.15%
3	第311回利付国債(10年)	日本	0.800%	2020年9月20日	A1	A+	7.50%
4	第127回利付国債(5年)	日本	0.100%	2021年3月20日	A1	A+	6.47%
5	第313回利付国債(10年)	日本	1.300%	2021年3月20日	A1	A+	5.84%
6	第322回利付国債(10年)	日本	0.900%	2022年3月20日	A1	A+	4.84%
7	第5回新韓銀行円貨社債(2014)	韓国	0.390%	2017年11月13日	Aa3	A+	4.09%
8	第328回利付国債(10年)	日本	0.600%	2023年3月20日	A1	A+	3.84%
9	第315回利付国債(10年)	日本	1.200%	2021年6月20日	A1	A+	2.92%
10	マコーリー銀行	オーストラリア	0.563%	2020年3月23日	A2	A	2.30%
合計							60.99%
組入銘柄数							44銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	-0.02%
平均クーポン	0.93%
平均残存期間	3.98

※ 「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比▲0.18%、一方、ベンチマークであるブルームバーグ・バークレイズ・日本総合(3-7年)インデックスは前四半期末比▲0.34%となりました。当四半期の当投資信託は前四半期からの戦略を維持し、ベンチマークを上回る結果となりました。世界的に過度なリスク回避姿勢が後退し、また日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が導入されたことなどから、当四半期末の10年国債利回りは前四半期末比0.145%上昇のマイナス0.085%となりました。委託会社は、日銀の量的金融緩和策を背景にして、日本国債利回りはマイナス圏で推移すると予想しています。今後の当投資信託の方針として、デュレーション戦略ではベンチマーク対比小幅短めとし、種別戦略ではベンチマーク対比での国債の少なめの配分と非国債の多めの配分を維持する方針です。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1~*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

用語説明

- *1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下東証東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証東京証券取引所が有しています。
東証東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S&P500種株価指数」とは、スタンダード&プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S&P500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。
- *3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(現地通貨ベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。
- *4 ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。パークレイズは、ライセンスに基づき使用されているパークレイズ・バンク・ピーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・パークレイズ・日本総合(3-7年)インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

注意事項

○変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。

*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

○変額保険のリスクについて

①市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>